

松尾浩也著「刑事訴訟の理論」有斐閣 2012年10月10日刊を読む

「原理」「理論」「主体」

このたび、論文集『刑事訴訟の理論』を刊行するに当たり、若干の追憶に触れることを許されたい。それは、1958年12月に遡る。当時、私は新設されたばかりの上智大学法学部で、刑事訴訟法担当の助教授として、何をなすべきかを苦慮していた。たまたま「原理」、「理論」、「主体」の3つの言葉が閃いたのは、京浜東北線の車中であつた。「そうだ。この3つの角度から対象に迫ってみよう」と興奮しながら電車を降りたことを想起する。

[コメント]

刑事訴訟法の講義や教科書で法律を学ぶ学生や、市民実務家からの評価が極めて高い松尾先生のわかりやすい著作。私は、青柳文雄先生、平野龍一先生、松尾浩也先生の3人の先生の刑事訴訟法の講義をお聴きしたが、本著により、ようやく松尾先生のお考えがよく「理解」できた。

— 2015年9月3日 林 明夫記 —